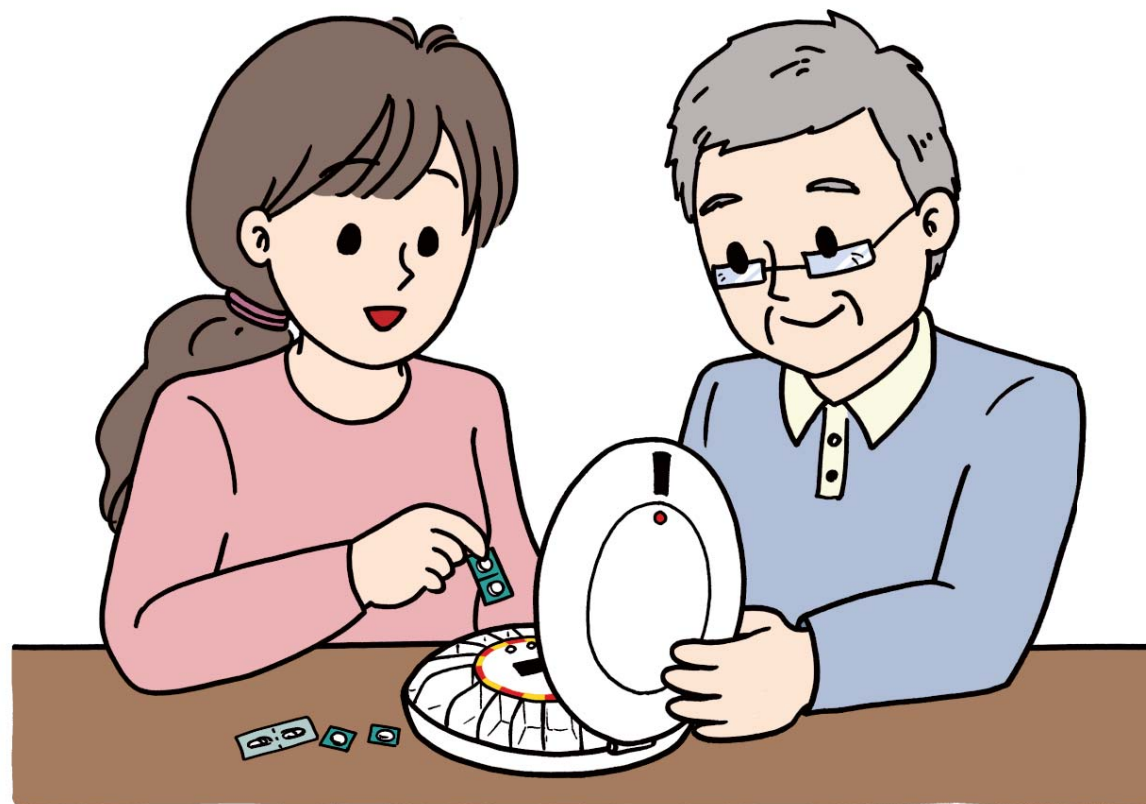


「アラーム付き薬入れ」を 使ってみましょう ver.1

— 「薬を飲み忘れない」 支援に向けて —



はじめに

- ◇ アラーム付き薬入れとは？
- ◇ 代表的な アラーム付き薬入れ 2例
- ◇ 推奨機器 3つの条件
- ◇ どんな人に適していますか？
- ◇ どのように役立ちますか？
- ◇ 使い方



問い合わせ先

はじめに

このマニュアルでは、**アラーム付き薬入れ**を活用した

「薬を飲み忘れない」支援 を紹介します。

認知症の初期には、
毎日決まった時間に飲むべき**薬を飲み忘れて**たり、
飲んだかどうかを忘れる といった服薬に関わる不都合が
頻繁に起こるようになります。

“薬の飲み忘れ” を防止し、自立して服薬できるよう
アラーム付き薬入れ が開発されています。



① 「決められた時間に飲むべき薬を飲み忘れてしまう人」 のための機器

“ **アラーム音** ” が、服薬時間を知らせ、
取り出し口に出て来た薬を取り出すまで、鳴り続けます

② 「薬を飲んだことを忘れて、次の薬も飲んでしまう人」 のための機器

“ **タイムロック機能** ” で、
一定時間が経過すると、薬を取り出せなくなります

③ 「人的支援のもとで使う」 機器

1. 薬を1回分ごとに分けて、
あらかじめ薬入れに詰める援助が必要です
2. 利用者の能力や状況に合わせて、
機器を設定する援助が必要です

代表的な アラーム付き薬入れ 2例

下の写真は代表的な2機種で、主な違いはアラーム音停止のための機構です。
あらかじめ、薬を詰めた後、蓋を閉じ、鍵をかけて使います。

設定した時間にアラーム音が鳴り、内トレイが回転し、取り出し口に1回分の薬が出て来ます。
また、設定した時間が過ぎると、薬が取り出せなくなります。



薬を詰めるために蓋を開けたところ



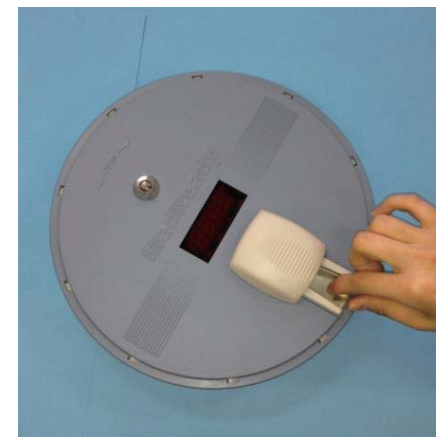
薬を取り出すための動作／操作

薬入れを引っくり返すとアラーム音が停止

販売: タムラプランニング & オペレーティング



薬を詰めるために蓋を開けたところ



薬を取り出すための動作／操作

取り出し口の蓋を開けるとアラーム音が停止

販売: The Alzheimer's Store (国内販売店無し)

以下の条件を満たす アラーム付き薬入れ の使用を推奨します

操作が簡単

【利用者にとって】

薬を取り出しやすい／アラーム音の停止操作が容易／誤作動が起きにくい

【介助者にとって】

薬を詰めやすい／アラームの時間設定が容易

明瞭なアラーム音

遠くからでもハッキリ聞こえる／電話の呼び鈴などと区別しやすい

アラームの鳴る時間を自由に設定できる

鳴り始める時刻／薬を取り出すまで鳴り続ける時間

どんな人に適していますか？

以下のような方に、**アラーム付き薬入れ**が役立つ可能性があります

- 服薬時間に

【	家族が声をかけないと、	】	薬を飲み忘れる
	家族が出かける昼間は、		
- **1人暮らしなので、いつも、** 薬を飲み忘れる
- 薬包紙やメモなどに**服薬時間**を書いても、 薬を飲み忘れる
- **壁掛け式カレンダー型薬入れ**などに入れても、 薬を飲み忘れる



Aさんのケース

糖尿病と軽度認知障害のAさんは、高齢の夫と2人暮らし。娘さんが、毎日、服薬時間に訪問か電話をして、糖尿病治療薬の服用を促していました。それでも、時々飲み忘れがありました。

1日3回の服薬すべてにアラーム付き薬入れを適用
娘が訪問時に薬を詰める援助



薬の飲み忘れがなくなり、血糖コントロールが改善しました。
Aさんも娘さんも、
「服薬の心配がなくなって安心」とおっしゃっています。



Bさんのケース

高血圧のBさんは、1人暮らし。

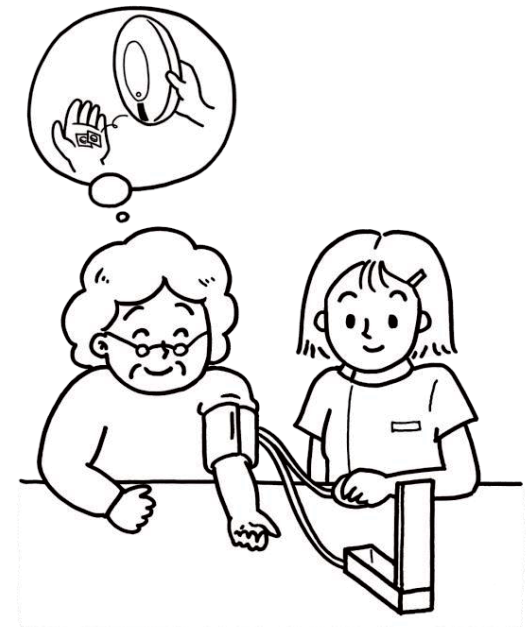
娘さんが、週に1回訪問して、壁掛け式カレンダー型薬入れに降圧薬を分けて入れておきましたが、時々飲み忘れがありました。

1日3回の服薬すべてにアラーム付き薬入れを適用
娘が訪問時に薬を詰める援助



薬の飲み忘れがなくなり、血圧が正常になりました。

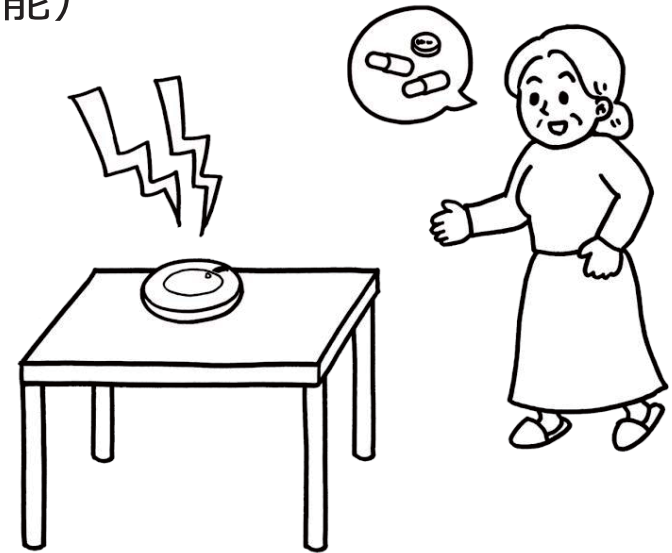
Bさんも娘さんも、
「服薬の心配が無くなって安心」とおっしゃっています。



1. 使えるかどうかを調べる

【使用適応となる方の基本条件】

- 機器操作に必要な能力がある（視力・聴力・運動機能）
- 決まった時間に、同じ場所で、服薬できる
- 認知障害が軽度で服薬の必要性を理解している
- 飲んでいる薬の形が、錠剤／カプセル剤である



* 基本条件を満たしても、生活の中でアラーム付き薬入れが使えるようになるか、練習すれば使えるようになるかは、対象者の能力や使用状況を評価し、判断する必要があります。作業療法士など専門職の助言を受けましょう。

2. 機器の設定や使用準備

- アラーム音が鳴り始める時刻や継続する時間、音の種類を設定しましょう
- 鍵の使用、置き場所、薬を詰める介助者、詰める頻度など、使い方を決めましょう
- 薬の処方内容や服薬状況をチェックし、問題に対処する服薬管理者を決めましょう

3. 服薬管理上の問題がないことを確認するために

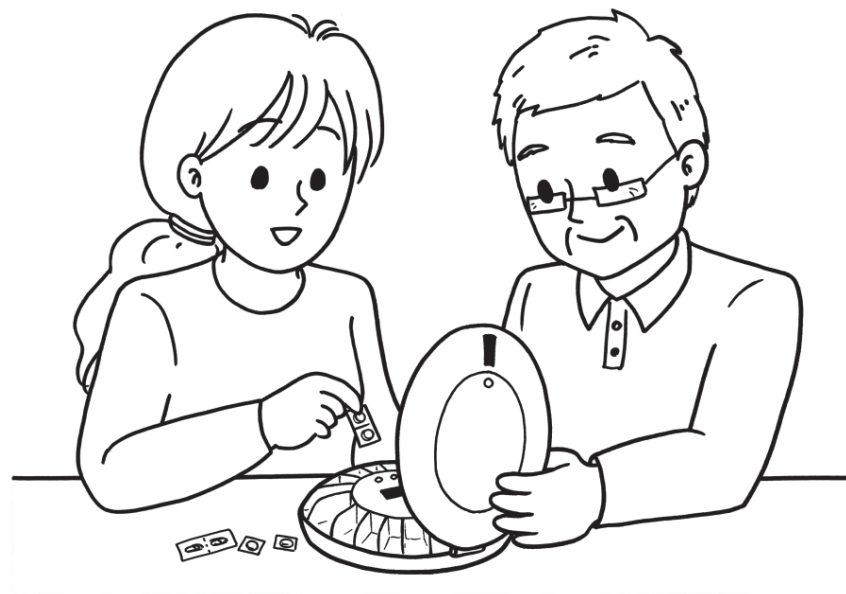
- アラーム付き薬入れを使っても、薬を取り出した後の飲み忘れは防げません。
また、服薬時に注意すべき事項のある薬もあります。
- 服薬に、アラーム付き薬入れを用いるにあたっては、医師、薬剤師、看護師など、専門職の助言を受けましょう。

1. 利用者の能力や状況の変化に合わせて、使い方を変更しましょう

アラーム付き薬入れを、いったん上手く使えるようになった後も、体調や病状の変化などで、上手く使えなくなるときがあります。また、薬の処方内容や生活のスケジュールなどが変わると、機器の再設定が必要になる場合があります。

服薬管理者は、利用者の状況を継続的にチェックし、問題に対処しましょう。

2. 電池を使用する機種の場合には、定期的に電池交換をしましょう



問い合わせ先

アラーム付き薬入れ および 本マニュアルについては **問合せ先①**に、
使用適応などの専門職への相談については **問合せ先②**に、お問い合わせ下さい。

- 本マニュアルで紹介したアラーム付き薬入れは、国立障害者リハビリテーションセンター併設「認知症のある人の福祉機器展示館」でご覧いただけます。
- また、「認知症のある人の生活支援機器データベース」もご参照下さい。

(http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/lifeSupport/top_ja.php)

問合せ先①: 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 福祉機器開発部
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1
電話 : 04-2995-3100 (代表) E-mail : dementia@rehab.go.jp

問合せ先②: (専門職への相談) 信州大学 医学部保健学科 上村 智子 研究室
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
電話 : 0263-37-2395 (直通) E-mail : tkamimu@shinshu-u.ac.jp

©国立障害者リハビリテーションセンター2013 [非売品] 本マニュアルの内容を無断で複写複製することを禁じます